



丸山 寛
(公明党)



人と動物が共に幸せに暮らす高崎

質問 飼い主のいない猫対策事業の現状は。助成対象に現在の町内会と動物愛護団体に加え、市民サポーターのような仕組みを新たにづくり、併用してみてはどうか。

答弁 令和6年度は、8町内会と2つの動物愛護団体から申請があり、117頭分の助成金を交付した。助成対象の拡大は今後研究していきたい。

質問 多頭飼育崩壊時における動物愛護団体の負担は大きい。未然に防ぐための対応は。

答弁 不適切な飼養の情報提供を受けた際は、動物愛護センターの職員が現地に赴き指導をし、改善がない場合は、警察と連携し積極的な対応を行っている。また、早期発見のため他部局との連絡体制を構築している。事業者による事案には、立ち入り検査時のチェック体制の強化とともに、発生時は動物愛護団体との連携等で早期解決に努めている。



新保 克佳
(公明党)



フェーズフリーを生かした防災対策

質問 本市のフェーズフリーに対する考え方は。また、具体的な取り組みは。

答弁 フェーズフリーの理念は重要であると認識しており、引き続き推進するとともに、周知啓発に努めたい。また、備蓄品のローリングストックのほか、昨年度導入した電気自動車は大容量のバッテリーを搭載し、平常時は低燃費な公用車として活用する一方、災害時は移動式電源として利用することとしている。

質問 身近な市有施設である公園に、フェーズフリーによる災害対応機能の整備が必要と考えるが、本市の考えは。

答弁 オープンスペースである公園は、火災時の延焼を防ぐ緩衝地帯の役割や避難場所など、防災拠点の一つとして活用されている。今後、自主防災組織の活動状況などを踏まえ、災害機能を有した公園整備の在り方を研究していく。



渡辺 幹治
(新風会)



本市の食品衛生指導員体制の現状
小・中学校に対する食育教育の現状

質問 食品衛生指導員の不足に、行政としてどう関わるか。

答弁 指導員の不足は、地域の食品衛生の向上や安全な飲食環境の確保に直結する重要な課題であると認識している。指導員は高崎食品衛生協会の会員の中から選出されるため、行政としては直接的な関与ができないが、引き続き協会と連携を図る中で、会員および指導員の確保に向けた取り組みを支援していく。

質問 健康的な生活のためには幼少期からの食習慣が大切である。本市では家庭での食育をどう考えているか。

答弁 家庭と学校が一体となって食育を推進することが、子どもたちの生涯にわたる健康づくりにとって重要と考える。給食だよりによる家庭への啓発活動や、健康教育フェアにおいて学校給食や健康教育の取り組みを広く紹介するなど、食育推進に努めている。



谷川 留美子
(超党派の会)



小・中学校のプール施設と水泳の特技授業

質問 水泳授業は単なる体育の一環ではなく、水難事故等から命を守るすべを身に付ける重要な役割がある。今年度の市内小・中学校の水泳授業の実施状況と猛暑への対応は。

答弁 小・中学校各学年で8時間程度の水泳授業を実施している。また、熱中症指数や、水温と気温の関係等を参考に、各校で実施の可否を判断し、安全な指導に取り組んでいる。

質問 猛暑や先生の負担、学校プールの老朽化等で水泳の実技授業が難しくなっている。市内5つの屋外公営プールを順次温水プールへ改修し、児童・生徒の利用と老若男女の健康維持に役立てられないか。

答弁 市内には浜川と新町に屋内型温水プールがあり、多くの市民利用がある。屋外から屋内型温水プールへの改修等には、多大な予算が必要で、整備予定はない。現有施設のさらなる有効活用に努めたい。



渡辺 隆宏
(新風会)



夏休みの居場所づくり事業

質問 子どもにはさまざまな特性がある。夏休みの居場所づくり事業の実施には、利用児童の特性に関する事前情報の把握や学校との情報共有が必要と考えるが、市の考えは。

答弁 事業の実施に当たり、利用申請書や運営側と保護者側とで共有している児童票により、アレルギーや疾患、生活、精神上的のサポートの必要性を確認し、必要に応じて保護者への聞き取りを行った。また、学校との情報共有については、今後課題として研究していきたい。

質問 利用した児童や保護者から好評であった本事業の継続的な実施の考えは。

答弁 長期休業期間のみ利用したい保護者のニーズに対し、既存の放課後児童クラブの状況を鑑みると、今年度の冬休みや春休み、来年度の夏休みについても継続的に事業を実施していきたい。



宮原田 綾香
(たかさき未来)



榛名湖ヴィレッジ(板橋区立榛名林間学園)
子どもの学童期への支援

質問 板橋区立榛名林間学園の無償譲渡について、板橋区の試算では修繕費20億円であるが、高崎市の試算は幾らか。また、修繕に対する長期的な方針は。

答弁 雨漏りなど施設の損耗等の状況のほか、施設全体の電気設備、給排水管、受水槽などの主要施設の老朽化の状況を踏まえ、緊急性や優先度などを考慮し、市の財政状況等を総合的に勘案しながら、計画的に検討していきたい。

質問 放課後児童クラブは、来年度より法人委託が可能となる。昨年度約4000万円の内部留保を持つクラブがあったが、内部留保の半分は税金のため、市が用途を指定すべきと考える。市の方針は。

答弁 全部委託とする場合、運営委員会と受託法人とで協議の上、決定していただく予定である。双方が納得した取り扱いとなるよう支援したい。



中村 さと美
(公明党)



若者の奨学金返還を支援する取り組み
学校教育の課題と不登校対策

質問 奨学金返還を肩代わりする支援制度があり、本市でも実施する必要があると考えるが、市の考えは。

答弁 奨学金返還の負担を抱える若者への支援は必要と考える。本市では、市内中小企業等に就職した若者に就職奨励金を交付し、負担軽減や活動支援に取り組んでいる。今後も本市独自の取り組みを継続することが重要と考え、他自治体での事例を参考に、より効果的な支援に努めたい。

質問 本市における不登校の児童・生徒の過去3年間の推移と、民間フリースクール利用者への交通費支援の考えは。

答弁 令和4年度が971人、5年度が1008人、6年度が1041人と増加傾向である。交通費支援などの補助は、市が条件等を課すことになり、フリースクールの特色ある自由な運営を妨げることにつながるため、検討していない。



林 恒徳
(市民クラブ)



本市における公共施設の老朽化対策
暑さ対策としての街路樹

質問 本年3月改訂の高崎市公共施設等総合管理計画を踏まえ、公共施設の今後のあるべき姿を市はどのように考えているか。

答弁 計画では、適切な保全工事を実施し、バリアフリーへの対応や耐震基準、環境性能の向上などを検討するとしている。公共施設は災害対策の拠点や住民の避難場所として安全に利用できることが重要であるため、耐震化の促進に努める。施設の老朽化対策は総合的な観点から、費用と便益の最適化を図るための取り組みを研究したい。

質問 街路樹による日陰を増やし、中心市街地の回遊性の向上に取り組む考えは。

答弁 県道を管理する群馬県と街路樹の植樹や剪定などの考え方の情報共有を図り、街路樹が与える回遊性向上の効果の研究も行いながら、快適な環境の整備に取り組みたい。